

イノアックリビング サポティクッションを使った ポジショニング実演

HCRレポート



側臥位時は顔に小さなクッションを使い沈み込みによる窒息を防ぐ(右が福島氏)

イノアックリビング(東京都品川区、神谷秀幸社長)は体圧分散に優れた「サポティクッション」や、床ずれ軽度～中度、自立の人も活用できるマットレス「ファセットケアマットレス」などを国際福祉機器展(HCR)で展示した。

インアックリビングは、中材には硬さや大きさが異なる同社独自のウレタンを採用。8mmキューブが体重を受け止める、小さい4mmキューブが隙間を埋めて安定性を高める。

同社ブースでは、ナチュラルハートフルケアネットワーク理事の福島寿道氏がサポティクッションを使ったベッドや車いすでのポジショニング方法を紹介。お尻、かかと付近に圧が集中し、長時間寝ていると床ずれのリスクが高くなると福島氏。また、拘縮などで体がこわばっている人には筋緊張を和らげるように姿勢を整えることで安楽に過ごすことができる」と説明した。



大きなU字クッションを使い、背中と腕を支える

サポティクッションは床ずれや拘縮ケア、姿勢保持をサポートするポジショニングクッションで、身体との接触面積が大きく、高いフィット感が特徴。しっかり身体を支えながら、筋緊張を和らげるように姿勢を整えることで安楽に過ごすことができる」と説明した。

独自の構造の車いすクッション発売予定

問合せは同社(03-0531-0000)まで。



参考出品したファセットケアクッション

ファセットケアマットレスと同じ、独自の六角形スリット構造を施した車いすクッション「ファセットケアクッション」も参考出品した。

タイプやいかだ状のWタイプを組み合わせて圧を分散する。車いす上では、大きなUタイプを2つ使い背中と腕をしっかり支え、安楽な姿勢を保持する。

加重がかかりやすい座骨部には大きめのスリット加工を施し、優しく包み込むのが特長。また、上層から下層にかけて硬くなる設計で底付きしにくく、しっかりと身体を支える。